第 15 回資源管理手法検討部会の結果について

令和５年８月 10 日
水産政策審議会
資源管理分科会
資源管理手法検討部会

令和５年６月 12 日（月）に開催された第 15 回資源管理手法検討部会で整理された論点及び意見は次のとおり。

１．マダイ瀬戸内海東部系群

- **漁獲等報告の収集について**
  - 即時性のある正確な漁獲量を把握する体制の構築が必要。また、現場に負担のかからない電子的な報告体制を整備すべき。
  - 自由漁業や遊漁による採捕量を把握する体制の構築が必要。

- **資源評価について**
  - 漁獲の強さはＭＳＹを達成する水準を上回っているにもかかわらず、資源が増加している要因について分析すべき。
  - 親魚量の目標は、過去最高の親魚量の約 1.5 倍となっており、環境収容力等を考慮して、目標の妥当性を含めて再度計算・検討すべき。
  - 遊漁者の採捕実態、影響を踏まえた資源評価とすべき。

- **資源管理について**
  - 瀬戸内海の環境収容力や他の漁業への影響、サイズ別の市場価値を考慮して、管理手法や目標を設定すべき。
  - 底びき網漁業や定置網漁業ではマダイ以外にも多様な魚種が漁獲され、ＴＡＣの上限に達したからといって操業をやめるわけにはいかないため、弾力的な運用を行うべき。
  - 遊漁者による採捕も含めた管理体制を構築すべき。
  - 瀬戸内海は２つの系群ではなく、１つの系群で管理すべき。

- **ＳＨ会合で特に説明すべき重要事項について**
  - 漁獲量が増加傾向にあり、価格も下がっている中で、数量管理を導入することのメリットを提示する必要がある。
  - 瀬戸内海では入会が多く、一部の県では複数の系群を利用している実態を踏まえた管理方法を示すべき。

２．サワラ瀬戸内海系群

- **漁獲等報告の収集について**
  - 電子的な報告体制の整備状況等を踏まえながら、報告義務の履行について府県間で差が生じないような体制を構築するべき。
  - 自由漁業や混獲による採捕、遊漁による採捕に係る報告を収集する体制を構築すべき。

- **資源評価について**
  - 加入量の推定方法、資源量及び親魚量の関係性、直近年のＣＰＵＥの増加の要因、再生産関係式や資源評価の妥当性について、丁寧に説明すべき。
  - 他魚種による捕食や環境要因、遊漁による採捕を考慮した資源評価を行うべき。

- **資源管理について**
  - 小型魚の保護など、これまでの漁業者の自主的な資源管理の取組みを考慮した、幅広い漁獲シナリオの検討が必要。また、複数の漁獲シナリオを図示した上で、漁業者に説明すべき。
  - 各府県で実施してきた広域資源管理の取組みを、研究機関による検証・分析を踏まえ、必要なものだけにすべき。

  - これまでの資源管理の取組などを踏まえ、不公平にならないＴＡＣの配分方法を検討すべき。

- **ＳＨ会合で特に説明すべき重要事項について**
  - 現状の資源管理では不十分で数量管理を導入する必要があることや、数量管理のメリットを説明してほしい。
  - サワラを主目的としていない漁業や遊漁による採捕の管理の方法について説明すべき。
  - 数量管理の導入にあたっては持続的な漁業経営という視点も含めて検討すべき。
  - ＴＡＣの配分数量の融通など、これまで行われてきたＴＡＣ管理の運用方法について丁寧に説明すべき。

（以　上）